

センタージャーナル

■発行人／荒山 淳

■発行所／真宗大谷派名古屋教区教化センター

〒460-0016
名古屋市中区橋二丁目8番55号
TEL (052) 323-3686
FAX (052) 332-0900



「すりきず公園」の手づくりの看板。傷や痛みから彼らは何を学び、私たちは何を学ぶのか。(4-5面)

(写真の無断転用はご遠慮下さい。)

立つ！
いのちの大地に
聞く！
いのちの叫びを

真実の学びから、
今を生きる「人間」としての
責任を明らかにし、
ともにその使命を生きる者となる。

もくじ

- ・聖典研修 第3・4回
『仏説阿彌陀經』
—その教義と真宗の儀式— **②・③**
- ・現代社会と真宗教化
「子ども夢ハウスおおつち」を訪ねて **④・⑤**
- ・大谷派の近現代史
学ぶ場としての「平和展」 **⑥・⑦**
- ・INFORMATION **⑧**

◆イラストカット集(※寺報などにご利用ください)

光と影の狭間

最近、私自身はまっついていることがある。それはSNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)のFacebook(フェイスブック)なるものである。各地の情報がリアルタイムに伝達されてくることや、(いいね)・(シェア)することで他者と認め合い繋がるという、友だちの輪が広がる楽しさも同時に味わっている。

都合の悪いことは見て見ぬふりする私の自我がはたらく。また今、何の解決も見ぬまま原子力発電所の再稼働が始められようとしている。送電線の向こう側には、想像を絶する世界があるのだらうと、私の頭にそんな思いがよぎると同時に、自分の分限を超えたことだと囁く自分がいる。そういう私に宗祖は、

そうして伝わってくるなかには、東日本、特に福島第一原子力発電所爆発事故関連の情報も少なくない。原発の周りにある町は、四年経った今も一人の人影も見ることとはできないという。『福島民報』によれば、放射線に阻まれ自宅に戻ることもできず、原発事故による関連死が二月二十一日までに千八百六十二人に達し、「県民健康調査」対象者三十七万人中、甲状腺がんを発症した子どもが、疑いを含め百人を越したと伝えられる。なかには被曝されたご自身の健康状態や、亡くなられた我が子の写真を掲載しておられる方もおられる。何に苦しみ、何に悲しんでいるのか知ってほしい。声にならない声に向き合い耳を傾けてほしい。

都合の悪いことは見て見ぬふりする私の自我がはたらく。また今、何の解決も見ぬまま原子力発電所の再稼働が始められようとしている。送電線の向こう側には、想像を絶する世界があるのだらうと、私の頭にそんな思いがよぎると同時に、自分の分限を超えたことだと囁く自分がいる。そういう私に宗祖は、

「ただ普通に生活していたい」という胸を切り裂くような叫びが、そこから聞こえてくるのである。

五十年に一度お迎えする宗祖の御遠忌を目前に、五十年をつなぐ一日いちにちの日暮しが仏事となっているのか。仏前に灯される灯明に照らされたこの身と、それによって生み出される陰影。まさに光と影の狭間に立つて私の後生の一大事が問われ続けていくのである。

自分自身がこの状況下に置かれたらどうだろう。亡くなられた子どもの顔写真の背後に我が子の顔を浮かべる一方で、

六悪とは、一に悪時、二に悪世界、三に悪衆生、四に悪見、五に悪煩惱、六に悪邪無信盛時なり。

(主幹 荒山 淳)

聖典研修

『仏説阿弥陀經』—その教義と真宗の儀式—

第三回 二〇一四年十二月四日(木)

親鸞聖人の三部經觀

講師 廣瀬 惺氏 (同朋大学特任教授)



大悲の教え

親鸞聖人までは、三部經は、通じて念仏往生を説く經典とされてきました。それに対して、親鸞聖人が初めて、三部經に「真實の教え」と「方便の教え」の意義を見出してくださいました。『大經』の「真實」に導くために「方便の教え」を仏陀はお説きくださった、その經典が『觀經』と『阿弥陀經』だということです。

この「方便」ということについて、親鸞聖人は、『教行信証』に曇鸞大師のお言葉を引いております。

正直を方と曰う。外己を便と曰う。

正直に依るがゆえに、一切衆生を憐愍する心を生ず。

(『聖典』二九四頁)

「方便」の「方」とは「正直」ということであり、それは、どのような衆生も漏らさないという意味です。それは容易なことではありません。そこに、続いて曇

外己に依るがゆえに自身を供養し恭敬する心を遠離せり。

(『聖典』二九四頁)

とおっしゃっております。

自らを尊ぶ心を離れる、すなわち、仏陀の自己否定でしょう。仏陀が一人といえども衆生を漏らさず、衆生に真實を開こうとされて自己否定なさった。そしてお説きくださったのが『觀經』と『阿弥陀經』だということです。

そういう意味では、『觀經』と『阿弥陀經』は、仏陀による並々ならない大悲の教えと申し上げてよいかと思えます。

「方便の教え」としての意義とは？

親鸞聖人は「化身土巻」の初めに、当時の時代社会・仏教界の状況について記しておられます。そこには、法を見出し、人・法に生きている人はほとんど

いない。一方で、表面だけ仏教徒の姿をしている者、仏教を知識として学び、名利の具にしている者が極めて多いと述べておられます(『聖典』三三六頁)。

これは今日の私たちの状況と言ってもいいのではないのでしょうか。しかし親鸞聖人は、そのような状況を単に嘆いておられるわけではありません。そこには、仏陀がお説きくださった『觀經』に対する深い帰依・信順があるのでしよう。

そこに、そのような状況を記されたことに続いて、

ここをもつて釈迦牟尼仏、福德蔵を顯説して群生海を誘引し

(『聖典』三三六頁)

として、そういう状況を仏陀が全存在をもつて受け止めて「釈迦牟尼仏」と、いわばフルネームをもって記しておられる意)お説きくださった『觀經』の意義をいただいております。

そしてご自身、そのような状況を生きる一人として念仏の信心に立ち返っていらっしゃるのです。そういった時代に生きる衆生の課題に應えて、仏陀は人々を「誘引」し、仏法との縁を開こうとなさっております、その仏意をいただいておりますという事です。

今一つ、『阿弥陀經』の意義について書かれた一文を見ますと、『觀經』の意義に対応する形で書かれております。

しかればすなわち釈迦牟尼仏は、功德蔵を開演して、十方濁世を勧化し

たまう。

(『聖典』三四七頁)

『觀經』のところでは『觀經』の教えの内容が「福德蔵」とあったのに対して、ここでは『阿弥陀經』の教えが「功德蔵」と記されています。「功德蔵」は宗教の眞実が説かれていることを意味しているのでしよう。

『觀經』のように、「福德」という衆生の要望に応えた表現ではありません。『阿弥陀經』では、仏陀が浄土のすがたをお説きになり、その世界へ生まれる行として「念仏申せ」とひたすら眞實の法を勧めておられるのです。

しかしそれは、念仏さえ称えていればよいという話ではありません。念仏を勧めることを通して、南無阿弥陀仏にまどなつてはたらいにくださっている如来の本願に立ち返らせ、本願に生きる生活を回復しようとなさっております。これが、『阿弥陀經』の仏陀釈尊による教化の内容でしょう。そのお心を親鸞聖人は「勸化(勧め転化せしめる)」という言葉で押さえてくださっています。

そういう意味で、『觀經』は果てしない迷いの世界の広さに応えて、一切の衆生に仏法との縁を開いてくださる經典。それに対して、『阿弥陀經』は私たち一人一人が抱えている疑心(自力の執心)に應えて、念仏を勧めることを通して今一度本願に立ち返らせてくださる經典と申し上げることができるかと思えます。

第四回 二〇一五年一月二十三日(金)

『仏説阿弥陀經』の儀式と「懺悔」

講師 竹橋 太氏 (儀式指導研究所研究員)



仏に出遇っていますか？

善導大師の『法事讃』は、『仏説阿弥陀經』の読誦を含んだ儀式の次第です。親鸞聖人も『法事讃』を大切にされているのですが、例えば親鸞聖人は「文類偈」で、

謗法・闡提回すればみな往く。

(『聖典』四二頁)

と説いておられます。

『仏説無量壽經』の第十八願には「唯除の文」があり、五逆・誹謗正法は除く、つまり救わない、とあります。それに対して親鸞聖人は、謗法などの自覚(回心)が浄土真宗の救いであると展開されているのです。「唯除の文」は謗法、闡提のために説かれた教えであり、回心することによって、みな浄土に往くことができる。その教えこそが私のために説かれていたのだというのが、親鸞聖人の信心、救いです。そして、この言葉は「懺悔」や「行道」を中心とした『法事讃』を典拠としているのです(『真宗聖教全書』一卷・五六七頁)。

仏に遇うということは、仏には成れない私であること、謗法・闡提を自覚するという以外にありません。それが懺悔といわれるのです。宗祖にとっては念仏そのものです。私たちは悪人であり、凡夫であるという自覚をいただいて救われる

ということです。

逆に言えば、私たちの懺悔によって、そこに仏がいらっしゃることが証明されるのです。私の頭を下げさせてくださるはたらきを仏というのであり、「懺悔」と「仏に出遇う」ということは同時に成り立っているのです。儀式はまさに、そういう仏との出遇いを示しているのです。

「仏徳讃嘆」についても、同じことが言えると思います。儀式の目的は仏徳讃嘆だと言われます。しかし、私が仏徳讃嘆の気持ちで儀式をするから仏徳讃嘆になるのではありません。仏の前で懺悔しているということによって、私の頭が下がっているということによって、仏徳讃嘆がその儀式において表現されているということになるわけです。

破られない私

「懺悔」とは自分をダメな人間だと批判することではありません。仏教では、そのようなあり方を「卑下慢」と言い、戒めています。自分がダメだと言えるということは、ダメではない答えを、もう一人の自分が知っているということです。ダメな自分を見ている、正しい答えを知っている、もうひとりの自分があるわけです。それから、「慢」すなわち、「思い上がり」であると言われるのです。

例えば、自分の善惡の判断が問われることがあります。「それはあなたの考えに過ぎない」と突きつけられ、知らされることがあります。一応自分が破られるということになるのですが、次の瞬間には「自分の間違いを知った私」は正しい」となって、自分を否定しきることはないのです。逆に、それを知ったから、さらに偉くなってしまふことすらあります。

だからこそ、「常に自身が破られる、破られ続けることが大切だ」と言う意見を聞いたりしますが、そうではなく、「破られない、どうしても自分を疑いきることはできない」と知る、自覚することが必要です。それが「凡夫」や「悪人」と宗祖がおっしゃった言葉の意味だと思います。そしてそういう自覚がまさに、自分自身が仏に遇った証拠です。

私たちは自身が破られたと思うと、仏の方に少し近づいたと勘違いしてしまいます。親鸞聖人は、人間と仏の出遇いを表現するにしても、その分限を守り、仏の方に近づいていると理解されないように慎重に言葉を選んでいらつしやると思っています。私たちは破られない身であるということ、言葉を尽くして、さまざまの著作を書かれたのではないかと思います。

「悲歎述懐」は喜びである

親鸞聖人は『教行信証』「信巻」において、誠に知りぬ。悲しきかな、愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快しま

ざることを、恥ずべし、傷むべし、と。

(『聖典』二五二頁)

と述べておられます。「悲歎述懐の文」と呼ばれています。これが親鸞聖人の救い、つまり南無阿弥陀仏を表現する言葉なのだと思えます。

本当にわかった。悲しいことである。この愚禿親鸞は愛欲の広い海に沈んだまま浮かび上がることもない。人に善く思われたいという大きな山に踏み惑い出ることもない。正定聚に入ることを喜びもしない。本当の証りを証るに近づくことを快しみもしない。恥ずかしいことだ。傷ましいことだ。

これは反省ではありません。「悲歎述懐」と言われていますが、これがまさに真実に出遇ったわが身の懺悔の表現であり、その裏には喜びも隠されているわけです。私は偽物なのだと教えていただき、本当に頭が下がった。これが親鸞聖人のいただかれた救い、信心なのだと思います。謗法、闡提の身である私を目当てとして、阿弥陀如来の第十八願は建てられている。仏と凡夫とが同時に成立する、実在するということが第十八願の意味であるとも言えるでしょう。これが親鸞聖人の受け取りだと思えます。

私が懺悔するとか、どうしたら仏に出遇うのかとか、私たちは別々に考えてしまいます。功德を頼んで浄土に往生しようとする仏智疑惑、自力、つまり、謗法の生き方。そして、自分を善とし、実は仏法など求めていない闡提であるという事実を知らされる以外に、阿弥陀仏に出遇うということはないのだと思えます。

現代社会と真宗教化

たった一人を待ち続ける家

「子ども夢ハウスおおつち」を訪ねて

管理者 吉山 周作氏
よしやま しゅうさく

東日本大震災により甚大な津波の被害を受けた沿岸部では、地域の支え合う力、見守る力が極度に低下した。その過酷な環境に残された子どもたちを守ろうと、二〇一三年四月十一日、岩手県大槌町安渡地区に「子ども夢ハウスおおつち」という「家」が開かれた。設立発起人の一人である笹原留似子さんとの縁により二度の訪問の機会をいただき、管理者として開所から常駐する吉山周作さんに、子どもたちはどのような今を生きているのかを伺った。子どもたちの声と、それに寄り添う吉山さんの姿は、お寺をあずかり同朋社会の顕現を標榜する私たちに、何を問いかけるのかを考えてみたい。

【家をつくろう！】

震災後、沿岸部で数々のご遺体の復元をした納棺師、笹原留似子さんは、残されたご遺族の今後をとて心配されていました。

学校の校庭のような広く平らな場所には仮設住宅が建ち並び、たとえ空き地があったとしても基礎や鉄骨がむき出しの危険な場所しかなく、先生や親からそこに入るなど言われ、子どもたちは外で満足に遊べない状況でした。次第に仮設に閉じこもりがちになり、不登校になったり、家族を亡くした子があつとを追って自殺未遂をしたり、命を落としてしまうケースもありました。また震災で地域



の見守る力が壊れた中、親の感情が子どもに向かつてしまうこともありました。

このような中、笹原さんは、心に傷を負いながら避難所や仮設で感情の発散ができない子どもたちの受け皿になる施設が必要だと考えておられました。



震災以降、何か支援ができないかと考えていた藤原茂さん（山口県「夢のみずうみ村」代表）は、そんな大槌町の子どもたちの様子を笹原さんから聞き、一軒家を借り、みんなが集まれる「家」をつくることを決めました。そして私が管理者をまかされました。

【子どもらしさを取り戻してほしい】

最初は子どもたちを緊急避難的に守る

うと開設しましたが、現在は安心して子どもらしさを出せる場所づくりをしています。

学校が終わると幼稚園児から中学生まで、十人弱の子どもが毎日来ます。おもちゃで遊んだり、歌を歌ったり、ボードゲームをしたり、絵を書いたり、おやつを作ったりして過ごしています。もちろん勉強もします。

ここに来るまで勤務していた「夢のみずうみ村」のデイサービスでは、入所されている方の意欲を大切にすること、達成できたという喜びによって、体が自然に動いていく姿を見ていました。ここでもそこで培ったアイデアを活かし、料理や工作、園芸、ゲーム、スポーツなど、子どもたちがやりたいことを大切にしながら、子どもらしさを取り戻してほしいと思っています。夢中になれること、得意になれることの経験が多いほど、将来に活かせる可能性が広がるのかなと思っています。



夢ハウス内でできるプログラム一覧表

【傷を作って大きくなる】

開設当初は携帯ゲームに没頭する子が多かったのですが、ここでは一切持ち込み禁止にして、もつと身体や五感を使ったことに目が向くように公園を作る事業を計画しました。二十人くらいのボラン

ティアさんと一緒に、子どもも丸太を切ったり土を運んだりして、五日間で更地から造り上げました。少しの時間でもみんなの協力でこれだけできるんだということを体験してほしいかったです。おかげで思い切り走り回ったり、サッカーをしたり、いたずらしたり、ケンカをしたりしています。



大人気の巨大すべり台

ここでは多くの命が失われ、たので、親御さんたちも残された我が子に対して「この子だけは」という思いが非常に強いのです。しかし成長する過程でいろんな壁にぶつかります。子どもは傷を作り、痛みを経験しながら大きくなるんだよという思いを込めて「すりきず公園」と名付けました。それに子どもはケガをしてでも遊びたいんですよ。

【誰もが悲しみを抱えている】

また、当初子どもたちは、ここに来た途端、めまぐるしくあれこれやったり、突然叫び声をあげたり、こちらの言うこともほとんど聞いてくれませんでした。その原因は震災の影響だけとは言い切れませんが、子どもたちは心に深く傷を残していることは確かだと感じました。子どもたちはあの時の音や匂い、家や車が潰れながら流される光景、人々の怒りや涙や絶望、そして数々のご遺体を目のあたりにしましたから。

一方、大人も仮設住宅という厳しい環境では、とても大変な思いをしています。身も心も経済的にも時間的にも限界の状態でしたので、子どもとゆっくり関わる余裕がありません。子どもたちはそんな家庭内の大人の状況や感情の起伏を敏感に感じ取って、心配や迷惑をかけたくないと我慢していたんでしょうね。自分らしくいられず、とても辛かったと思います。最近の子どもたちは「あまり津波の夢を見なくなった。でも不安な時やお父さんが仕事でいない時に見ちゃう」と、少しずつ自分の心の状態や変化を自己洞察できるようになってきています。



またある時は「おばあちゃんがいるような気がするんだ」といつて海の絵を描いている子がいました。苦しみをいろんな形で表現したり整理しようとする姿が見えてきました。子どもたちは四年経った今でも亡くした家族を思い出し、涙をこ

ぼすことがあります。いつもけんかやじやれ合いが絶えませんが、そんな時は自然に子どもたち同士で互いの痛みを聞き、励まし合う姿も見られます。こちらの指示も随分聞けるようになりましたし、いけないことは子ども同士で注意しあったりできるようになってきました。ここでの時間は子どもたちの生活のほんの一部です。しかし友達と一緒に気持ち

を発散したり、整理したりして、柔らかな表情で家に帰れたら、少しは親御さんの助けにもなっているのかなと思います。【いつでも帰っておいで】



人が懸命に積み上げてきたものが一瞬で流されたこの地で、だからこそ子どもたちには夢を持った人に育ってほしいのです。

悲しみを抱えながらも人生それだけじゃなくて、いろんな可能性があつて、その中で自分のやりた

つけ、失敗しても何度でもやり直せるということを、みんなと関わりながら経験してもらいたいのです。それを糧に、大きく変わった時に社会の中で活躍できる人になってほしいなと思います。そしていつか人生を振り返った時に、夢ハウスで過ごした時間が大切な宝物、心の故郷になっていると言ってくれる子が、たった一人でも育ってくれたら嬉しいですね。



《取材を終えて》

お話を伺った吉山さんは熊本県出身。リハビリ病棟勤務、マザー・テレサの「死を待つ人々の家」を訪問、震災ボランティアを経て、管理者として身一つで現地に飛び込み、ずっと傷ついた子どもたちに寄り添い、見守り続けてきた。それは彼らの悲しみを一身に引き受けてきた二年間だっただろう。なぜこの世はこれほどまでに厳しく、苦しく、悲しいのかという憤りを背負って。それでも吉山さんは子どもたちを信じている。この悲しみの向こうに喜びがある、きっと彼らは大切なことに気付き、この悲しみを背負って歩きだしてくれろと。「ただいま！」と帰ってくる子どもたちをいつも変わらないぬるやかな笑顔で待ち続けている。

子どもたちは自分らしくいることができる場所を失っていた。しかし、それは震災によって地域が崩壊した現地に限ったことではない。問題は、自分を尊び、他者を尊ぶ、ともに生きる世界を見失ったことによる苦悩にある。生まれながらに迷い、安らかな帰依を求めてもがくのは私自身も同じだった。夢ハウスの心地良い空気に触れ、心の奥で「帰りたい」と泣きべそをかいいている迷子の私がそこにいた。

「ご本尊はいつでもどこでも誰にでも「帰っておいで」とじつと見守り、待ち続けている。私たちがお預かりしているお寺は、この世の帰るべき「家」であれと願われているのではないだろうか。そして何より子どもたちや吉山さんの姿に強く問われる。あなたの帰る家はどこですか？そこに家族（仏・朋）はいますか？」と。

（研究員 大河内 真慈）

子ども夢ハウスおおつち

「子ども夢ハウスおおつち」は山口県に本部を置く社会福祉法人「夢のみずうみ村」代表の藤原茂さん（写真左）と岩手県北上市にある復元納棺の株式会社「桜」代表の笹原留似子さん（写真右）によって開設された。現在、職員の吉山周作さんと金石市の主婦、横澤智恵子さんに管理運営がまかされ、全国からの募金によって運営されている。



皆さんも是非ご訪問ください。

話を聞いてあげるのももちろん秘密は守るよ
おながすいたら
あたたかいスープを飲もうよ
手づくりなんだよ
ぐっすり眠れる場所も ちゃんとあるよ
何をしてみたい？ やってみようよ
なんでも一緒にやれるよ できるさ
どうしようもならないことは
小さく分けてあげられるかなあ
いつでもおいでよ
なんにもできないけど
一緒にいてあげられるから
いつでもおいでよ

（「子ども夢ハウス」の理念）

岩手県上閉伊郡大槌町安渡2-10-16
☎ 0193-55-6565
詳しくはブログ子ども夢ハウスおおつち
で検索

大谷派の近現代史

第26回平和展を終えて 学ぶ場としての「平和展」

【宗教と教育】

第二十六回目となる「平和展」は、教育を中心課題に据えました。「戦争と歩んだ教育」をテーマに掲げて、尾張中学校（現在の名古屋大谷高等学校）などの宗門校で行われた戦争教育（軍事教練）や、中国大陸に進出した日本宗教が占領地で日本語教育（日語学校）を行ったりしていた事実と、大谷派の僧侶教育の一端を取り上げました。

戦争と教育は無関係ではありません。教育によって戦争を是とする人間形成がなされます。その意味で言えば、目指す方向が顕著に表れるのが教育だと言えます。例えば、現在でも大谷派の住職に補任されるには教師の資格が必要です。教師資格を取得するには、大谷大学や真宗



大谷中学校（現在の大谷高等学校）運動会にて、「伏射」する様子（1936年）

学院といった専門校で学ぶ他に試験による検定があります。一九四四（昭和十九）年二月に行われた教師の検定試験を見てみると、布教に関する課題で「戦時宗教教化運動に就て記せ」という設問が出されています。この設問の背景には、一九四三（昭和十六）年十一月に「必勝生活運動」を「両本願寺戦時宗教教化運動」へと改称し戦争協力を拡大したことがあります。

一九一九（大正八）年以来、日本が占領していたマールシャル諸島にアメリカ軍が上陸したのも、この頃です。「一億一心」の総力戦体制で戦争へと向かっていった日本にとって、大谷派の戦争協力は、疑問を挟む余地すらなかったのかもしれない。その時代に私が生きていたとすれば、同じように戦争協力をしていたでしょう。しかし、「平和展」が目指すのは、そうした事実を知るためだけに開催してきたものではありません。現代に生きる私の問題として受け止めたいのです。

【戦争への心構え】

「戦時宗教教学運動に就て記せ」というこの設問には、確かに時代が反映されています。ただし、時代性が顕著となるのは、設問だけではなく導き出される解答にあります。

この問いが出された時に求めた正答は、戦争協力を推進する内容でしょう。戦争協力を是とすることは大前提であって、回答の可否は、一人でも多くの人々を感化できるような布教内容が問われたはずですから。つまり、僧侶に対して、「戦争協力への心構え」を試したのです。

【現代の課題として】

現代においてどんな捉え方ができるのでしょうか。設問自体は、現代にも通用します。筆者も、大学時代に同じような設問を問われたため授業で発表したことがあります。その時は、戦争協力を否定する解答となりました。それは、不殺生を説いた釈尊の教えや、安穏な世の中を願われた親鸞聖人の教えに反すると考え、答えに迷うことはありませんでした。

では、竹中彰元の反戦言動はどうでしょう。か。「戦争は罪悪である」と竹中が言い放った一九三七年九月十五日は盧溝橋事件から約二ヶ月後のことでした。戦争へと突き進む宗門と自らの教学理解との間に葛藤があったことでしょう。選択肢すら用意されてない中にあっても、仏法から世を問うたのです。筆者がどこか遠くから平和問題を批評するような形で語る仏教とは違います。教えの本質を社会と向き合わせることを通じて出た言葉でありました。

【大垣教区の特別展】

今回の「平和展」で特筆すべきことは、大垣教区内寺院にご協力を頂き、特別展



特別展の一角。紀元2600年記念法要の五条袈裟（右）、「同朋箴規」の扁額（左）をはじめ、多くの史料を展示。



「皇帝陛下訪日記念郵票」。1935年、「満洲国皇帝溥儀」の訪日記念切手。写真上は表紙。

「大垣教区新史料」を盛り込めたことです。教区を越えて、大垣からの三名が新しく平和展スタッフとして参加いただいたがゆえに、これまでの「平和展」の学習の場で収集しきれなかった史料を展示することができました。

特別展示では、一九四〇（昭和十五）年五月十日に皇紀二六〇〇年を記念して本山で行われた奉賛大会の「写真アルバム」や「紀元二六〇〇年記念五条袈裟」、大垣教区布教団発行の「伝道リーフレッ

ト」それに大垣教区内門徒さんから提供いただいた「満洲国外交部国外旅券」(パスポート)、「(満洲国) 皇帝陛下訪日記念郵票」など、当時の様子を伝える史料を展示しました。とりわけ、「同朋箴規」の扁額(大垣教区専了寺蔵)は、本山が示した教化方針が普通寺院(末寺)にどの様に受け入れられたのかという一例として貴重な史料であるため、ご紹介します。

- 一、己を捨てて無碍の大道に帰す。
- 一、人生を正しく見て禍福に惑わず。
- 一、報恩の至誠を以て国家に尽す。

「同朋箴規」は、この三箇条の徳目を指します。一九三七(昭和十二)年四月十四日に発表されました。一見して、宗教的な徳目を明文化したように見えますが、中国大陸で戦闘を繰り広げている国家に尽くすことを至上命令としたことは、見逃せない事実です。内容的に見て、大谷派流の教育勅語理解の一つとも言えるでしょう。

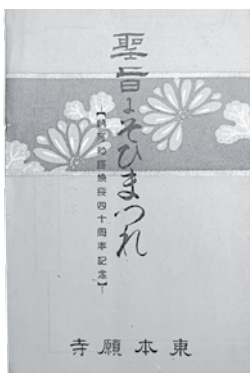
この標語は、大谷光暢法主の「御親言」として機関誌『真宗』の紙上を通じて普通寺院へ伝達されました。徹底するため大谷智子裏方の作詞・歌唱による「同朋箴規レコード」や河崎頭了が著した『同朋箴規とその使命』といった史料はこれまでの様な態度を取ったのかという点は、あまり解りませんでした。しかし、今回の展示によって、その一例が提示されたのです。この扁額は、本山が製作したものです。

ありません。寺院が独自に作製し本堂の外陣南側上壁に掲示されているものです。襖一枚ほどの大きさがあります。本堂へ参拝した際に、よく目立つため、門徒教化の為に掲示されたことが解ります。

内容は、冒頭に「同朋箴規」の文言を掲示した後に、意図が説明されています。その説明は本山発信ではなく、オリジナルな内容と思われます。真俗二諦の教義と親鸞聖人の御消息「朝家の御ため国民のために、念仏もうしあわせたまいそうらはば：(以下略)」を引用して、同朋箴規を守り国家に報いることを論じています。

【大谷派と教育勅語】

教育勅語が発せられて四十年に当たる一九三〇(昭和五)年十月に合わせて、大谷派は大々的に記念行事を行いました。この時、教育勅語の理解徹底を促すためリーフレット『聖旨にそいまつれ』を数万部発行しました。この史料も大垣教区内寺院からの提供です。大谷派は教育勅語を聖旨と位置づけて、「明治天皇の大御心を体し、教育勅語の聖旨に立ち帰ることとは誠に意義深いことである」と言い、教育勅語を「布教」しました。



教育勅語を「聖旨」として位置づけ、「常に聖旨に副ひ奉るやう心掛けねばならませぬ」と説いた。

【占領地での日本語教育】

占領地では、日本宗教の開教活動の一つとして「日語学校」(日本語学校)が開



真谷大宗派の日本語教育(「満洲国」)の様子(1936年)

手」できるものであって、その目的は「支那青少年の永久的獲得」にあり「知日、親日の選良分子たらしめ」、「吾人の真の協力者たらしめる」ことにありました(『支那宗教大同連盟年鑑』一九四二年五月十五日)。日本軍による占領地経営と宗教団体の利益が一致した宣撫活動でもありました。中国「華中」の占領地で、大谷派、真言宗、曹洞宗といった日本仏教や、天理教や金光教などの教派神道、それに中国基督教教会などが経営した約四十の「日語学校」を紹介しました。

【平和展から現代を考える】

以上のような展示内容から考えたいのは、歴史から現在に共通する課題です。過去の戦争について考える時、「時代がそうさせた」「そういう時代だった」と時代を理由とするのであれば、反戦平和を高らかに宣言する姿もまた、時代のなせる非戦論になってしまいます。しかし、真宗門徒である限り、教えに立ち帰るべきではないでしょうか。人間の「意見」は場合によって変質しますが、「教え」は普遍です。今からおよそ二五〇〇年前、釈尊によって説かれた教えを、親鸞聖人を通じて学ぶことができるのは、「教え」が普遍であるからです。

教えを教えとして受け止められない自分にもがき続ける身ではありますが教えに学ぶ場として「平和展」が開かれることを願います。

(研究員 新野 和暢)

設されました。これは「反日」の人を懐柔し、親日家を養成する宣撫活動の一つに数えられます。「日語学校」経営の増加は、「他の諸事業に比し手つ取り早く着

『親鸞聖人ノート(改訂版)』

「お東ネット」からダウンロードできます！

当センターでは、「同朋の会」などの聞法会で使用する新しいテキストとして、講義を一方的に聴聞するのではなく、書き込みながら僧俗ともに「寄合・談合」することを願い、2008年11月に『親鸞聖人ノート』を発行しました。折しもそれは、本山の宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要を目前に控え、名古屋教区のお待ち受け事業である「真宗門徒入門講座」のテキストの指定を受け、宗祖の生涯を学ぶ多くのご門徒に利用されました。

ただ、その過程で様々な問題点も出てまいりました。その中で最も多かったのは「参考資料のボリュームが多すぎる」というもので、せっかくの講座も「消化不良のまま終了してしまっ」との声もよく耳にしたのでした。

そこで、このたび参考資料等を再検討し、シンプルにまとめ直した改訂版の作成を試み、ようやく完成の運びとなりました。また、この改訂版はあえて冊子としては刊行せず、PDFファイルでウェブサイト「お東ネット」に公開する形で提供いたします。ご自由にダウンロードしご活用ください。と同時に、忌憚のないご意見・ご感想も引き続きお寄せください。



INFORMATION

教化センター日報

■2014年12月～2015年2月

- 12月3日 研究業務「自死者追悼法要 いのちの日のいのちの時間」後援
4日 教化研修「聖典研修③」(廣瀬惺氏)
9日 研究生・実習「真宗門徒講座(宗祖親鸞聖人 生涯と教え⑧)」
10日 HP「お東ネット」会議
17日 研究業務「平和展」学習会
19日 教化センター報恩講
- 1月8日 研究業務「平和展」学習会
9日 研究生・教化研修「解放運動推進要員研修」参加

- 16日 研究生・実習「真宗門徒講座(宗祖親鸞聖人 生涯と教え⑨)」
19日 研究業務「平和展」学習会
23日 教化研修「聖典研修④」(竹橋太氏)
26日 研究生・自主学習「2015年度 真宗門徒講座 企画会」
- 2月2～14日 2014年度 教化センター図書整理
9日 職員研修会「差別と私④」
13日 研究生・実習「真宗門徒講座(宗祖親鸞聖人 生涯と教え⑩)」
17日 研究業務「平和展」学習会
18日 教務所・教化センター合同報恩講
19日 教化研修「聖典研修⑤」(廣瀬惺氏)
23日 研究生・教化研修「解放運動推進要員研修」参加
27日 研究業務「平和展」学習会

公開講座のご案内

◆聖典研修 全8回

『仏説阿弥陀経』—その教義と真宗の儀式—

- | | | |
|---------------------------|-----|------------------------------------|
| 第6回 4月16日(木) | 日程 | 講義：午後6時～7時20分
功究・座談：7時40分～8時30分 |
| 廣瀬 惺氏(同朋大学特任教授) | 会場 | 名古屋教務所1階 議事堂 |
| 第7回 5月15日(金) | 持ち物 | 『真宗聖典』 |
| 竹橋 太氏(儀式指導研究所研究員) | 聴講料 | 500円
※教師陞補のための聴講証発行研修 |
| 第8回 6月18日(木) | | |
| 廣瀬 惺氏(同朋大学特任教授) | | |
| (全8回 第7回 5月15日、第8回 6月18日) | | |

《編集子雑感》

ご存知の通り、名古屋教区・名古屋別院の御遠忌が約1年後に厳修されます。各部会での話し合いも進み、3月28日の「お待ち受け大会」を皮切りに、お待ち受け行事や各組の「お待ち受け」の開催が予定されています。

多くの御遠忌委員さんに事務職員が加わり総勢400名ほどが委嘱され、大所帯の部は100名を超え、意思疎通も簡単にはいきません。

そんななか私は、当然、御遠忌の部に所属する事務職員、教区内寺院に籍を置くもの、雇用されている個人、そして、いち真宗門徒として、どう迎えするか問われています。立場がいろいろあり、それぞれで優先事項もコロコロ変わってしまうが、個人的でなく「いち真宗門徒」として、どう勤めるのかを大切に、この1年を過ごしていきたい。

お知らせ

●職員研修につき、臨時閉館とさせていただきます。

・2015年4月14日(火)～2015年4月15日(水)

■御遠忌情報も発信しています。名古屋別院・名古屋教区・教化センター ウェブサイト
■「お東ネット」内で、教化センター所蔵図書・視聴覚教材を検索できます。

お東ネット 検索
<http://www.ohigashi.net/>

■教化センター

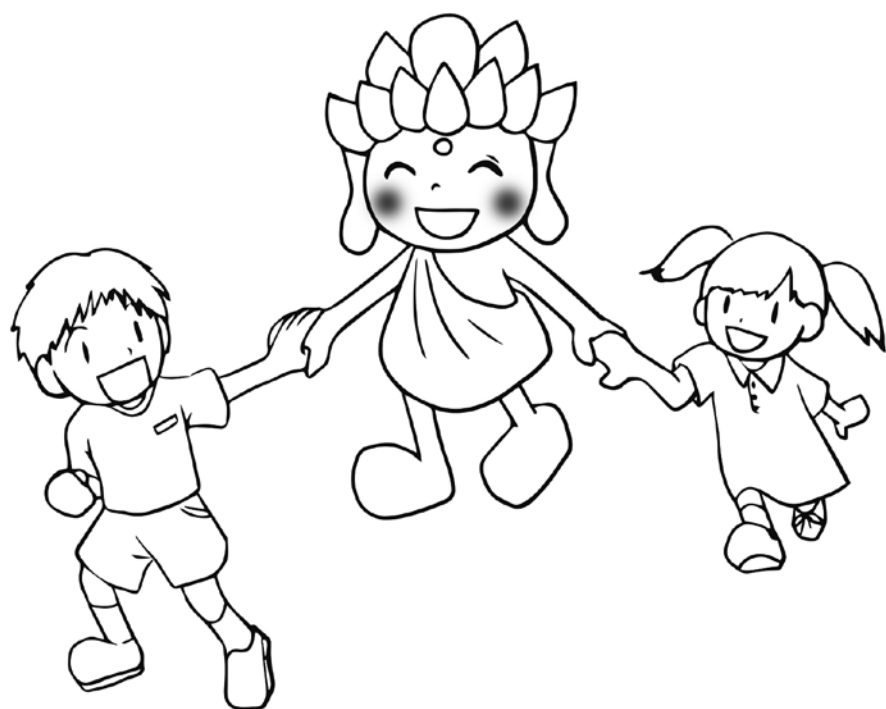
〈開館〉月～金曜日 10:00～21:00
土曜日 10:00～13:00
(日曜日・祝日休館 ※臨時休館あり)

〈貸し出し〉書籍・2週間、視聴覚・1週間

～お気軽にご来館ください～

イラストカット集

寺報やチラシなどにお使いください。



- ・データを希望される場合はお問い合わせください。
- ・差支えなければ、イラストを使用された場合、教化センターまでお知らせいただくとともに、イラストを使用した印刷物などもお寄せください。

※用途にあわせて、切り貼りなどしてご使用いただけます。
※あくまでもイメージです。ご了承の上お使いください。